

第3回中国・四国・九州・沖縄地区  
大学図書館職員フレッシュバージョンセミナー  
講義5 電子ジャーナル・機関リポジトリ

学術情報流通の歴史の変遷を俯瞰する

## 2. 電子ジャーナル

- ▶ WWWで読める雑誌 ('90年代後半～)
- ▶ 影響
  - 物理的制約からの解放
    - 購読形態の変化 = パッケージ化 (ビッグ・ディールの出現)
    - 購読タイトル増加 = シリアルズ・クライシスからの脱出
- ▶ でも...
  - 学術雑誌をWWWに乗せただけ = 投稿・査読・編集・校正
    - **編集作業の高コスト構造**は変わらず
    - 価格上昇 (毎年数%) + **購読規模調整機能の喪失** + 予算の制約
  - (コンソーシアムなどによる努力にも関わらず...)
  - シリアルズ・クライシス再び?

## 本講義の概要

- ▶ 1. 学術雑誌
- ▶ 2. 電子ジャーナル
- ▶ 3. オープン・アクセス運動
- ▶ 4. 機関リポジトリ
- ▶ まとめ
- ▶ 参考文献

## 3. オープン・アクセス運動

- ▶ オープン・アクセス運動の背景
  - 雑誌価高騰 → 読めない、読ませられない → 多くの人に研究成果を
  - 学術成果 = 公有財産を誰でも無料で
  - インターネットの普及
- ▶ オープン・アクセス運動の種類
  - Gold Road: Open Access Journal、OAオプション (著者負担)
    - 資金の潤沢でない研究者が発表の場を失う?
    - 科学企業に有利: 投稿数少ないが利用が多い?
  - Green Road: セルフ・アーカイブ
    - ex. 機関リポジトリ: 研究機関が構成員の研究成果を電子的に保存し、WWW上で無料公開する仕組み

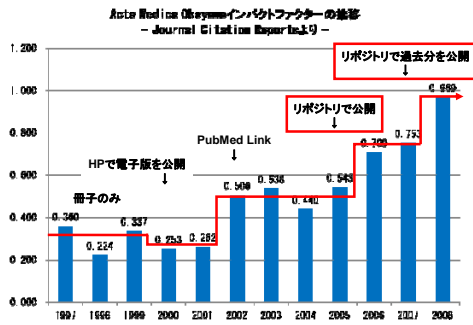
## 1. 学術雑誌

- ▶ 学術雑誌 (17世紀～) の特徴
  - 投稿 (無償) → 査読 → 編集・校正 → 製作 → 出版 → 流通
  - 関心を同じくする一部の研究者の間で流通 = そんなに売れない
  - 各誌に固有の価値があり、代替がきかない
- ▶ 20世紀後半、各国の科学技術に対する財政支援が増大
  - 研究者増 → 投稿論文数増 (Publish or Perish, 1950) = 編集コスト増
    - 1号あたり掲載数・雑誌数とも増加 = 製作・流通コスト増
    - コスト ÷ 購読部数 = 購読価格でしか回収できない
- ▶ その結果
  - 価格高騰 → 購読者 (機関) 減少 → 価格高騰 → ...
  - = シリアルズ・クライシス (北米: 1980年代後半)

## 4. 機関リポジトリ 1/2

- ▶ 機関リポジトリの数 (2009年9月10日現在):
  - 世界: 1,447 (ROAR) / 1,461 (OpenDOAR)
  - 日本: 111 (NII) / 76 (OpenDOAR)
  - ※ CSI委託事業 (NII) による普及 → ほとんどの国立大学で構築済み
- ▶ 機関にとっての利点:
  - 研究インパクト、ショーウィンドウ、アカウンタビリティ、社会貢献
- ▶ 利用者は **Google** / 各種検索サービス / リポジトリ本体から検索し、本文をダウンロード
- ▶ OAI-PMHを実装:
  - 外部のサービスから自動的に採録 (ハーベスト) してもらえる

## <参考> IR公開前後のIF推移の一例



## 参考文献 ～復習のために～

### < 学術情報流通の歴史と現状 >

- 土屋俊. 学術情報流通の最新の動向：学術雑誌価格と電子ジャーナルの悩ましい将来. 現代図書館. 2004, vol.42, no.1, p.3-30.
- 大学図書館の整備及び学術情報流通の在り方について(審議のまとめ). 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会. 2009. [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/gijyutu/giyutu4/toushin/1282987.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/giyutu4/toushin/1282987.htm) [accessed 2009-09-10]

### < 出版社側の主張 >

- STM出版の概要と研究成果に与える付加価値. 国際STM出版社協会. 2008. [http://www.stm-assoc.org/2009\\_04\\_01\\_Overview\\_of\\_STM\\_Publishing\\_Value\\_to\\_Research\\_Japanes\\_e.pdf](http://www.stm-assoc.org/2009_04_01_Overview_of_STM_Publishing_Value_to_Research_Japanes_e.pdf) [accessed 2009-09-10]

### < 電子ジャーナルとオープンアクセス運動 >

- 時実象一. 電子ジャーナルのオープンアクセスをめぐる議論と対立論文. 情報社会試論. 2005, vol.10, p.80-91.

### < 日本の機関リポジトリ >

- 学術コミュニケーションの新たな地平：学術機関リポジトリ構築連携支援事業第1期報告書. 国立情報学研究所. 2008. [http://www.nii.ac.jp/irp/archive/report/pdf/csi\\_ir\\_h17-19\\_report.pdf](http://www.nii.ac.jp/irp/archive/report/pdf/csi_ir_h17-19_report.pdf) [accessed 2009-09-10].

## 4. 機関リポジトリ 2/2

### ▶ 機関リポジトリのできるまで

- 学内合意形成→規程整備→システム構築→広報活動  
→権利処理→電子化→登録・公開

### ▶ 所蔵資料の電子化ではない

＝大学全体への視点は図書館だけでは成立しない

### ▶ 課題 ～運営館実務レベル～

- 捕捉率の低さ＝登録数の伸びなやみ
- 基本はセルフ・アーカイブだが...(意義と作業/権利処理の不安)
- 図書館/大学業務のどこに位置づけるか、持続可能か  
(システム?/目録?/多くの未経験業務/人手or人材不足)

## まとめ ～学術情報流通の変遷～

### ▶ 投稿論文増加

- 雑誌価格高騰
- シリアルズ・クライシス
- 電子ジャーナル化(ビッグ・ディール)
- 購読タイトル増加
- 価格高騰+調整機能欠如+予算の制約
- シリアルズ・クライシス再び?
- オープン・アクセス(機関リポジトリ)
- ??????